

スイートコーン栽培マニュアル

松本園芸推進協議会

1 年間栽培スケジュール

月旬	4月			5月			6月			7月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ				発芽前 ↓ 発芽	本葉 3 ↓ 4枚		本葉 6 ↓ 8枚		雄穂出穂期	絹糸確認時		収穫適期
作業内容		耕うん 施肥	マルチング かん水 播種	除草剤散布			追肥 土寄せ		病害虫防除 追肥	病害虫防除 かん水	病害虫防除	収穫

2 ほ場準備

スイートコーンは一般的な野菜類に比べ根量が少なく、湿害や乾燥の影響を受けやすい品目であることから、排水性のよいほ場を選ぶ。田んぼや水はけの悪いほ場では、過湿状態とならないよう排水対策（高畝）を行い、旺盛で健全な根張りを促す。

3 施肥方法 グリーンな栽培実践ポイント

(1) 【省力栽培（基肥一発施肥）体系】

	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a)		
		窒素	リン酸	加里
BB モロコシ一発肥料 (20-11-7)	119	23.8	13.1	8.3
合計	119	23.8	13.1	8.3

(2) 【省力減肥（基肥一発うね内施肥）体系】

うね内施肥（局所施肥）技術を導入することで、化学肥料施用量を20%削減できる。

	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a)		
		窒素	リン酸	加里
BB モロコシ一発肥料 (20-11-7)	95	19.0	10.5	6.7
合計	95	19.0	10.5	6.7

[参考] 実証ほ場における調査結果 (30 株平均)

実証区：生分解性マルチ＋発肥料マルチうね内施肥 (95 kg/10 a)

対照区：ポリマルチ＋発肥料全面全層施肥 (119 kg/10 a)

調査日	6月21日		7月18日	7月19日
調査項目	草丈 (cm)	葉数 (枚)	稈長 (cm)	調整重 (g)
実証区	142.1	9.0	153.9	376.3
対照区	143.7	8.9	150.8	390.7

※ 草丈、葉数、稈長及び調整重に大きな差は見られず、実証区と対象区の生育はほぼ同等であった。

4 播種・マルチング

(1) 播種

- ・ 播種する当日にロータリー掛けを行い、地下 20cm は乾いていない状態を保って速やかに播種を行う。
- ・ 1 穴あたり 1 粒播種とするが、間引き等の作業が可能な場合は 2 粒以上播種すると欠株率が下がる。
- ・ 播種後、降雨が無いようであればかん水を行う。ただし、過度なかん水を行うと地面が硬くなり割れてしまうため注意する。

(2) 栽植密度

うね間 45cm×30～35cm 5～6,000 株/10a

(3) マルチング **グリーンな栽培実践ポイント**

有孔黒マルチなどを使用し、土壌水分が十分にある状態で行う。

生分解性マルチを使用すると、ポリマルチに比べ栽培終了後の片付け作業の時間短縮が可能となり、作業人員の削減が可能となるとともに、片付けに要する労力の大幅な軽減につながる。

作業の内容	残渣除去	マルチ除去	合計
生分解性マルチ	100 分	0 分	100 分
ポリマルチ	100 分	25 分	125 分

※実証ほでの作業における実測値

5 中間管理

(1) 除草剤散布

①播種後～発芽前、②発芽後～4葉期、③6～7葉期頃を目安に必要な応じて除草剤を散布する。

(2) 追肥

追肥を行う栽培体系の場合、生育状況に応じて本葉6～8枚時及び雄穂出穂期に行う。基肥一発施肥体系の場合、追肥作業は省略可能である。

(3) かん水

絹糸確認時に行う。上部からのかん水は困難であるので、うね間かけ流しなどを行う。

(4) 病虫害防除

雄穂出穂期（アワノメイガ）、絹糸確認時（アブラムシ）、雄穂出穂期以降（オオタバコガ）に殺虫剤散布を行う。

6 収穫・調整

(1) 収穫時の目安

絹糸の出始めを記録しておき、平均気温と登熟に要する積算温度を元に収穫予定日を決め、出荷遅れを防ぐ。

（参 考）絹糸抽出から収穫までの積算温度の目安

ゴールドラッシュ 450～460℃

また、収穫予定日の3日程度前に試し穫りを行い、収穫適期であるか確認する。

(2) 荷造り

- ・ 朝収穫を原則とし、高温になる時間帯での収穫は控える。
- ・ アブラムシが付着している場合は、きれいに拭き取る。
- ・ 出荷後、アワノメイガによる被害や幼虫の混入が見られることがあるため、荷造りの際に先端絹糸を確認する。